

月経困難症診療における鍼灸の効果 — 紹介から施術まで —

[執筆] 田口玲奈 (明治国際医療大学鍼灸学部)

[監修] 寺澤佳洋 (口之津病院内科・総合診療科, 医師・鍼灸師)

鈴木雅雄 (福島県立医科大学会津医療センター漢方医学研究室教授)

本コンテンツはハイブリッド版です。PDFだけでなくスマホ等でも読みやすいHTML版も併せてご利用いただけます。

▶ HTML版のご利用に当たっては、PDFデータダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶ シリアルナンバー付きのメールはご購入から3営業日以内にお送り致します。

▶ 弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することでHTML版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は <https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/> をご参照ください。

▶ 登録手続

1. はじめに ————— p2
2. 鍼灸治療が有効であった症例 ————— p2
3. エビデンスからみた月経困難症に対する鍼灸治療の効果 ————— p6
 - 1) 機能性月経困難症に対する鍼灸治療の効果
 - 2) 器質性月経困難症に対する鍼灸治療の効果
 - 3) 月経困難症に対する鍼灸治療のメカニズム
4. 東洋医学における月経困難症と鍼灸治療 — p9
 - 1) 肝鬱気滞による痛経
 - 2) 血瘀による痛経
 - 3) 寒湿による痛経
 - 4) 気血両虚の痛経
5. 月経困難症における鍼灸治療の適応 — p11
6. まとめ ————— p12
鍼灸師や鍼灸院を患者に紹介する場合

▶ 販売サイトはこちら

日本医事新報社では、Webオリジナルコンテンツを制作・販売しています。

▶ Webコンテンツ一覧

1. はじめに

産婦人科領域において、鍼灸治療は有効な治療方法の1つとして考えられ、様々な場面で用いられている。近年では、女性疾患を専門に取り扱う鍼灸院なども増加し、ニーズが高い。月経は女性の身体生理学的な特性であるが、それが月経周期に伴う心身の変化を引き起こし、時に苦痛や不安の原因となる。月経に伴う様々な症状は、月経随伴症状と呼ばれ、多くの女性は少なからず何らかの月経随伴症状を経験している。

骨盤痛の主な婦人科的原因となるものに、月経困難症がある。月経困難症は、機能的月経困難症と器質性月経困難症に分類され、一定の鍼灸治療が効果を示す報告が多い。本稿では、月経困難症に対する鍼灸治療の効果について紹介する。

2. 鍼灸治療が有効であった症例

症例 1

28歳 女性 会社員

機能的月経困難症

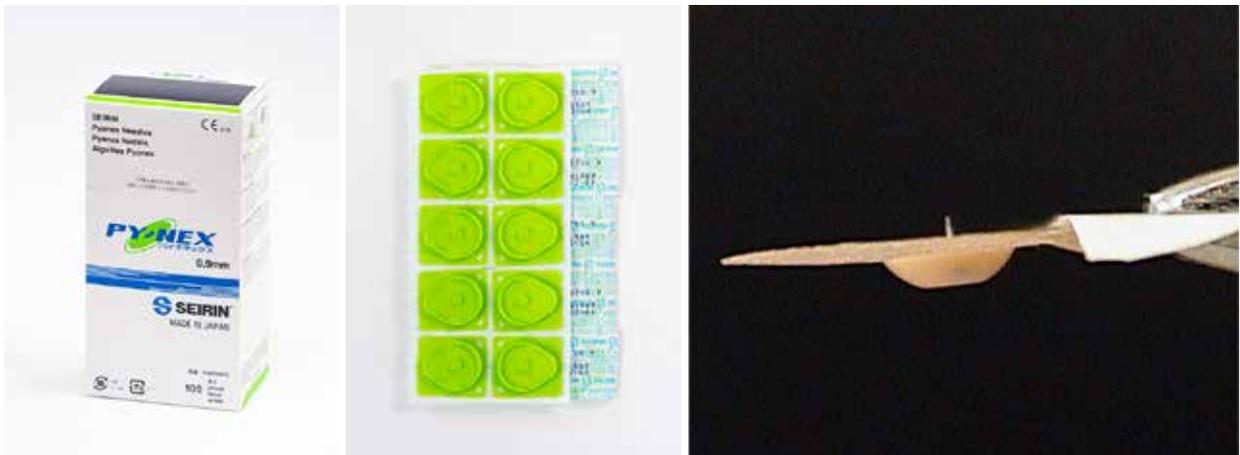
月経時の下腹部痛、腰痛、下腹部の張りを訴え来院。18歳頃から月経痛が起こるようになり、月経1～2日目にかけて特に下腹部痛が強く、1日に2～3錠の鎮痛薬を使用している。服用しないと仕事に差し支えるので、不安であると来院された。

鍼治療にはセイリン社製の円皮鍼パイオネックス®(直径12mmの絆創膏の中央に長さ0.9mmの鍼)を用い、内果の上、指4本分上で脛骨の後縁にあたる両側の三陰交に貼付した(置き鍼)。三陰交穴は、東洋医学では生殖器系に関係の深い足の三陰経(肝、脾、腎)の交会穴(交わる経穴)であることから、婦人科疾患を主治する常用穴として頻用されている(図1)。



図1 月経困難症で用いた三陰交

また、円皮鍼とは、円形のテープに鍼が樹脂で固定されており、刺激を持続させたいときに用いる貼付式の鍼である（図2）。治療は1週間のうちの4日間を連続貼付期間とし（当日の入浴前に剥がすなど、1日ごとに貼付し直す）、その後の3日間は絆創膏によるかぶれを防ぐため、貼付休止期間とし、同様の治療を毎週行った。主訴であった下腹部痛や腰痛、下腹部の張りなどは治療を重ねるにしたがい減少した。

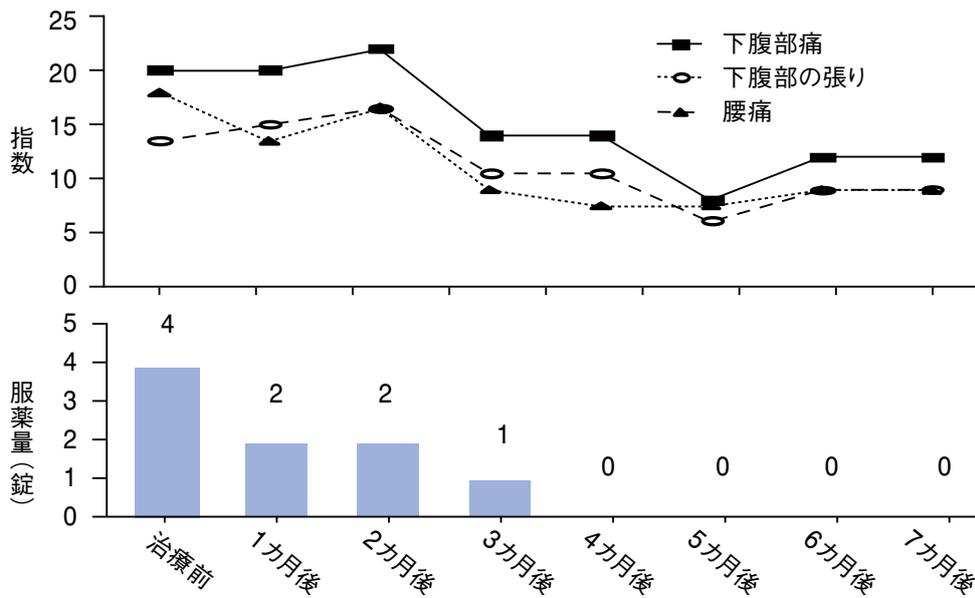


横から見た置き鍼

図2 月経困難症の治療で用いた置き鍼

商品写真はセイリン社提供：1枚のテープに鍼が樹脂で固定されている。鍼の長さは0.3～1.5mmまで、用途によって使いわけ

また、下腹部痛のVAS（visual analogue scale）も治療前と比較して、治療開始後から低下を認め、鎮痛薬の服薬量も減少し、治療4カ月後には服薬を必要としなくなった（図3）¹⁾。



指数：月経開始5日間の症状点数の合計（18の症状項目と5段階の症状の程度から算出）

図3 症例1 月経困難症に対する鍼治療

（文献1より引用）

症例2

23歳 女性 会社員

機能性月経困難症

4年ほど前から月経時の下腹部痛が強い。前職場のストレスが原因で、症状の悪化を認めていた。漢方薬を服薬しても完全には消失せず、月経初日に2～3錠の鎮痛薬を服用する。それでも痛みが強く寝込むこともあり、なんとかならないかと来院された。

四診により肝鬱気滯と診断し、最初の1カ月は週に1回、三陰交穴、太衝穴、百会穴などの鍼治療、合谷穴、足三里穴などへ灸治療を行い、その後は月経開始2～5日前に1回の治療を行った（図4）。